

20〜30代の発症が急増中！

子宮頸がん検査を受けましょう！



子宮頸がんの発症年齢は、主に30〜40代ですが、近年、20〜30代に急増しています。発症する前に発見できれば、子宮を摘出せずに完治でき、その後は、妊娠・出産することもできます。そのため、定期的に検診を受けることが大切です。

子宮頸がんとは

「子宮頸がん」は、子宮の入口部分にできるがんで、ほとんどがHPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染が原因と言われています。自覚症状はほとんどなく、かなり進行するまで気づきにくいがんです。がんが進行すると、不正出血、血液のまざったおりもの、下腹部の痛みなどが起こります。さらに進行すると、手術の範囲が広くなったり、放射線療法や化学療法が必要になったりします。また、骨盤近くから子宮を取り除く手術になると、むくみ、排尿・排便の障害などの後遺症を残すこともあります。

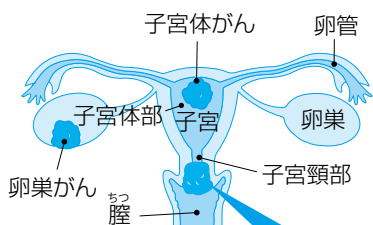
※HPVは、皮膚や粘膜に存在する、誰もが持つウイルスです。

女性の約80%が一度はHPVに感染

HPVは、性体験のある女性の約80%が生に一度は感染すると言われています。避妊具で感染のリスクを下げることができるのですが、ウイルスはカバーしきれない部分にも存在するため、確実に防げるわけではありません。感染した場合、ほとんどは自然消滅しますが、長期間感染し続けると、がんになる可能性があります。

平成23年度の子宮頸がん検診では、市内で11人が発症していることがわかりました。

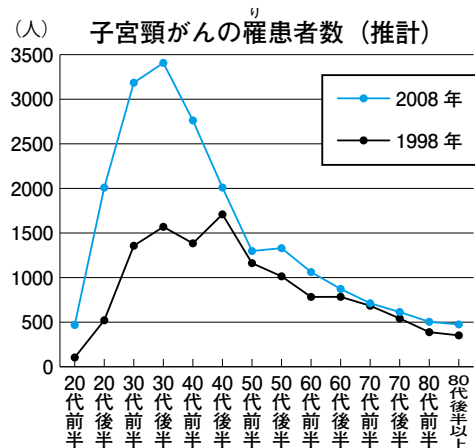
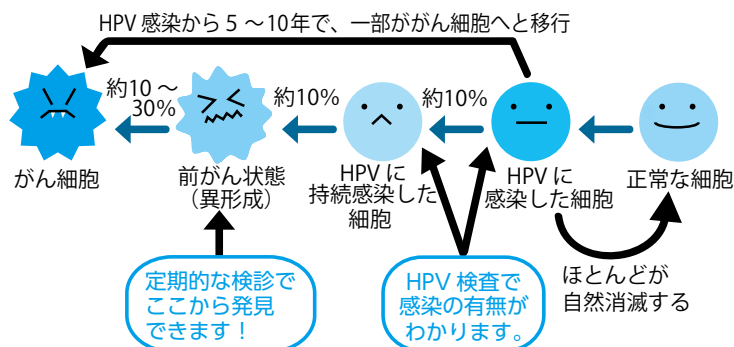
子宮頸がんの部位



子宮頸がん

西洋梨を逆にしたような形の子宮、その入り口(頸部)にできるがんのことです。

子宮頸がんが発生する過程



出典：地域がん登録全国推計値から（国立がん研究センターがん対策情報センター）

子宮頸がん検診の内容

子宮頸がん検診は、子宮頸部から採取した細胞を顕微鏡で観察し、異常がないかを調べる「細胞診」を行います。

【検診の流れ】

医師による問診

視診・内診・細胞診・

HPV検査（希望者のみ）

（約3週間後）

検診結果の返却・受け取り

※検査結果の確認までが検診です。受けたままにせず、しっかり結果を確認しましょう。



★HPV検査を受けましょう

HPV検査とは、細胞診と同じく子宮頸部の細胞を使い、HPVに感染しているかを調べます。現段階で異常がなくても、将来的に危険性があるかわかります。

「細胞診」と「HPV検査」の2つの検査を併用すると、より正確な判定ができます。

手おくれになる前に、 早期の検診を

子宮頸がんは、20～30代の女性がかかるがんの中では、乳がんに次いで多く、近年、比較的若い世代で罹患率が上昇しています。

がんの発症を防ぐためには、自覚症状がない早い段階で病変を見つけることが重要です。早期に発見することで、子宮の摘出手術を避け、将来元氣な赤ちゃんを出産することもできます。

国内の検診受診率は20%程度と非常に低いのが現状です。これは、子宮がん検診に対する情報が少ないために、過度な不安感や抵抗感を持つ女性が多いからだと思われます。しかし、実際の検診は、個人差はありますが、特に強い痛みはなく、内診台での診察もほとんど1分以内で終わります。

ぜひ、積極的に検診を受けるようにしましょう。



富士レディースクリニック
院長 中山 真実 医師

検診費用と検診間隔

市では、20歳以上の女性に子宮頸がん検診を実施し、検診費用の7～8割を公費で補助しています。

【検診費用】

1回1400円

※なお、40歳以上の女性のうち、不正出血などの有症状者は、子宮体がんの検査もあわせて計2000円で受診できます。

【検診間隔】

20～39歳／年1回

40歳以上／2年に1回

市は、今年度から、子宮頸がん検診無料クーポン券の対象者のうち、31歳・36歳・41歳の希望者に対して、HPV検査を無料で実施しています。対象者のクーポン券には「HPV対象」と記載されていますので、ご利用ください。※対象でない人は自費での受診になります。料金は、受診する各医療機関にお問い合わせください。



●検診は、市内の婦人科・産婦人科で受診できます

〈市内で検診を受けられる医療機関〉

医療機関名	電話番号
池田産婦人科医院	(21)2228
共立蒲原総合病院	(81)3325
武田産婦人科医院	(63)5122
たむらレディースクリニック	(65)7777
中島産婦人科医院	(51)4188
長谷川産婦人科医院	(53)7575
富士レディースクリニック	(21)1111
船津クリニック	(65)7272
宮崎クリニック	(66)3731
望月産婦人科医院	(34)0445
ロゼレディースクリニック	(60)5747

★定期的な検診を受けましょう。

※一次予防として、中学1年生～高校1年生の女子には、子宮頸がん予防ワクチン定期接種を行っています。現在、厚生労働省の勧告により、定期接種の積極的勧奨を一時控えています。

問い合わせ 健康対策課（フイランス）

☎(64)8992 FAX(64)7172